

奈良市第4次総合計画作成業務委託に係る公募型プロポーザル

交渉権第1位及び第2位事業者の企画提案書 概要

## 交渉権第1位：ランドブレイン株式会社

### 1. 本業務の実施方針

#### (1) 当社の特徴と基本スタンス

総合計画の策定に関しては、市民参画と職員参画を基調とし、住民自治によるまちづくり事業や協働プロジェクトの展開、行政職員の企画提案力の向上につなげていくことを、当社の特色としている。

市民意向を計画策定に十分に反映させることはもちろんのこと、計画策定後の具体的なまちづくり・活性化への展開も見据え、奈良市のまちづくりを責任持って担当したい。

#### (2) 本業務に対する取組方針

以下の方針に基づき、住民の参画と行政との協働のもとで「奈良市の夢」を描き、共通の行動目標を掲げ、“まちづくり”と“行政経営”の羅針盤となる「総合計画」の策定に取り組む。

- |     |                                       |
|-----|---------------------------------------|
| 方針1 | 「奈良」の住民と行政との協働、住民自治を基調とした計画づくり        |
| 方針2 | 世界に誇れる歴史文化都市として、「選ばれる都市」を実現するための計画づくり |
| 方針3 | 現計画の評価に基づく「奈良」都市経営戦略が示された計画づくり        |

#### (3) 奈良市の地域特性・課題に対する基本認識

##### ◆奈良市の現状認識（人・まち・産業・暮らし・行政の視点から強み・弱みを整理）

↓←様々な外部要因

##### ◆現状認識から導き出される主なまちづくり課題・方向性

- ・世界に誇れる歴史文化都市としての継承・発展
- ・防災性の向上や高齢者が暮らし続けられる安全安心づくり
- ・少子化対策と次代を担う子どもたちの育成
- ・住民自治の確立と協働による高い誇りの持てる地域づくり

↓

行ってみたい古都ナンバー・ワンの選ばれる歴史文化都市づくり

### 2. 奈良市第4次総合計画の策定方針

#### (1) 第4次総合計画の位置づけ・役割

第4次総合計画は、社会情勢や市民ニーズに柔軟に対応できる戦略的な都市経営のための羅針盤と位置づけ、従来型の総合計画に見られた問題を改善し、都市経営の視点を積極的に取り入れた計画とする。

この考え方を基本として、第4次総合計画は次の3つの役割を担う計画として策定する。

- |     |                                       |
|-----|---------------------------------------|
| 役割1 | 市の最上位計画であり奈良市政の道しるべとなる“まちづくりの羅針盤”     |
| 役割2 | 行政評価と連動して計画的なまちづくりの達成状況を測る“進行管理のものさし” |
| 役割3 | 市民と行政の協働によるまちづくりを実践する基礎となる“協働の行動指針”   |

## (2) 第4次総合計画の構成

第4次総合計画は、第3次総合計画の評価・検証を踏まえ、都市ビジョン（基本構想）、戦略指針（基本計画）、実践のための戦略プラン（実施計画）がロジックツリーによって総合化された施策体系（政策・施策・事務事業の総合体系）として再構築し、進行管理の仕組みとともに総合的な計画体系を構成する。

## (3) 戦略的・実効性の高い計画策定

“まちづくりの羅針盤”の役割を発揮するために、基本構想において奈良市が目指すべきビジョンや目標（政策テーマ）を明確にした上で、基本計画は「戦略計画（政策テーマに対応した重要施策を重点的に推進するための計画）」と「分野別計画（各部門を網羅する行政施策を総合的・体系的に推進するための計画）」の2部構成として策定する。

《戦略計画》 都市戦略として最大の力を入れるべき事項

各部門の横断的な連携により取り組む重点戦略

他都市に負けない魅力となり、市民の誇りとなるよう、市民の満足度評価5の達成を目指す。

《分野別計画》 行政分野全般にわたる最低限取り組むべき事項

各部門が責任を持って取り組む基本戦略

市民の満足度評価では平均点3を確保する（けっして不満を感じさせないようにする）。

## (4) 行政評価との連動性の確保と成果指標の設定

“進行管理のものさし”の役割を発揮するために、総合計画に基づく政策、施策、事務事業の効果と達成度を体系的・総合的に評価・検証できる計画体系を構築するとともに、総合計画の計画体系に合致した評価体系として行政評価システムを再構築することが必要だと考える。

「政策指標」

基本構想における計画フレームに対応した人口、財政等の指標と、市政全般に関わる住民満足度指標を設定

「施策指標」

基本計画の施策ごとに“施策の効果（まちのめざす姿への達成度）”を示す基本施策指標と、基本施策指標を補完する“住民にとって関心が高く”施策効果を的確に評価できる施策指標を設定

「事業指標」

個別事業の実施状況や活動量等を示す活動指標（客観指標）と、事業による効果や達成度を示す成果指標（主観指標）を組み合わせ設定

“行政評価をすること”が目的ではなく、“評価を活かしたまちづくりの推進”が目的。

## (5) 協働の考え方や市民と行政の役割を明文化

“協働の行動指針”の役割を発揮するために、市民と行政の協働によるまちづくりを進

めるための行動指針としての活用を想定し、計画の構成や記載事項、レイアウトやデザイン、表現方法など多面的な観点から配慮をした計画づくりを進める。

- ・協働の考え方、市民と行政の役割分担（市民の参画・協働の方法を明示）
- ・「わかりやすさ」、「使いやすさ」、「進行管理しやすさ」を重視
- ・市民と行政の役割分担を再定義し、市民が「何ができるのか」、「何をしなければならないのか」を明示
- ・目標指標に関しても、市民の行動目標として市民の取組意欲を醸成し、“新たな市民活動のきっかけ”となるよう指標や目標値の設定・表現などに留意
- ・市民会議においても、市民と行政の役割分担について市民の視点で検討、提案していただく。

### 3. 計画策定手法の提案

#### (1) 基礎調査の整理・課題分析の手法

平成20年度に実施した基礎調査結果を効果的に整理するとともに、それらを活用した庁内各課を対象とした施策動向調査の実施やSWOT分析による検討などを通して、第4次総合計画の策定につながる課題や方針を的確に分析する。

- ・基礎調査結果の整理（分野別基礎データシートのとりのまとめ）
- ・施策動向調査（第3次総合計画の総括を行い、分野・施策ごとに成果と課題を洗い出す）
- ・SWOT分析の実施（分野別基礎データシートを活用してSWOT分析を行い、各分野の戦略課題を導き出す）



第4次総合計画の骨子のベースとなるものとして整理

#### (2) 市民会議の実施手法

市民会議は、積極的な市民参画のもとに市民の意見を反映した計画づくりを行うとともに、総合計画の策定を契機として市民の協働まちづくりに対する意識や気運の向上を促し、計画策定後の協働まちづくりの一層の展開を目指して実施する。

- ・市民会議では、市民の目線と感性に基づき、奈良市が目指すべき展望（将来都市像）と展望に沿って取り組む戦略目標（政策テーマ）・重点戦略を提案
- ・「協働ワークショップ」形式で実施することが望ましい

#### (3) 地域懇談会の実施手法

- ・地域懇談会は、「市民と行政の対話」を重視するとともに、総合計画案について幅広く市民の声を聞く場として、多くの市民が参加しやすく、意見を言いやすい方法や内容を工夫する。
- ・地域懇談会の開催を通じて、協働によるまちづくりや住民自治のまちづくりの展開に向けて、市民の意識啓発や活動機運の高まりを誘発するよう工夫する。

#### (4) 庁内検討組織（ワーキング会議等）への支援

奈良の特性を反映した実効性の高い総合計画の策定のためには、検討・計画策定への市職員（企画のみならず全部門）の主体的な参画が不可欠であるため、庁内検討組織（策定委員会の下部組織：ワーキング会議等）を設置し、その企画・運営についても支援する。

#### (5) 会議運営にあたって留意すべき事項

総合計画審議会や地域懇談会等の会議運営や意見の整理・分析にあたっては、以下の点に留意し、円滑かつ効果的な進行や成果の導き出しができるよう努める。

- ・全体フロー、論点を明確にした資料作成
- ・統一フォーマット、記載見本、チェックシート作成等による計画試案作成支援
- ・パワーポイント等の使用による会議運営の工夫
- ・体系的で次につながる意見の整理・分析
- ・突発的な資料提出にも柔軟に対応

### 4. その他の提案

#### (1) 市民活動団体や大学・企業等との連携による計画策定

市民参画とともに団体等の計画策定への参画機会を設け、意見・提案の把握や行政とのパートナーシップの強化に向けた取り組みを実施する。

- ・グループヒアリングの実施
- ・大学生懇談会の実施

#### (2) 市民への情報発信・意識啓発の手法

策定過程の各段階で市民への情報提供を積極的に行うことで、計画策定に直接参画しない市民に対しても意識啓発を促し、意見や提案の機会を創出する。

- ・ホームページの活用
- ・広報での「連載・特集号」
- ・街かど情報ステーション
- ・その他配布資料などにおける記載事項（啓発メッセージ）やデザインなどの配慮

#### (3) その他の業務遂行上の提案・留意事項

事務局との対応の緊密化・円滑化のため、以下の点に留意した的確かつ効果的な対応を図る。

- ・「事務局会議」をきめ細かく開催
- ・連絡調整担当者を選任
- ・関係者全員によるメーリングリストを作成

## 1. 基本的姿勢

奈良市において重視すべき特性と課題、将来方向（仮説）について、次のように認識している。

### ■重視すべき特性

- ・人口問題
- ・まちなかの世界遺産
- ・豊かな自然環境

### ■重視すべき課題

- ・人口増加対策
- ・まちなかコミュニティの再生

### ■将来方向（仮説）

- ・将来像「（仮）歴史と自然に学び、人と未来を育てるまち」
- ・基本方向
  - 住み続けられ、コミュニティが育まれるまち
  - 生き生きと社会参加できるまち
  - 誰もが安心して子を育て、老いていけるまち
  - 古都の原風景を学び親しむまち
  - 人と地球に優しい里山を育てるまち
- ・計画策定と実現の進め方
  - 市民参画で策定し、市民との協働で実現する
  - 多様な地域特性を活かし、連携と交流を図る
  - 目標を設定し、行政評価や進行管理に用いる

## 2. 本業務の内容と方法

### （1）業務全体の流れ

「奈良市次期総合計画策定の方針に関する報告書」（平成21年3月奈良市都市経営戦略会議）であげられている策定に当たって配慮すべき次の事項のうち、①、④、⑤の点を踏まえ、計画策定の各局面における主体の関わりと検討の流れを示す。

- ①奈良市第3次総合計画の達成状況の精査
- ②人口減少への対策
- ③地域の個性に合わせた施策
- ④市民とともに作る総合計画
- ⑤目標の設定と進行管理

### （2）業務のポイント

#### ■時代背景と新たな総合計画に求められる要件

- ・地方自治の転換期における総合計画

- ・市民主体の目標設定
- ・目標実現に向けた行政職員の手腕発揮
- ・新しい公と地域経営を目指す計画

#### ■業務の方針

- ・わかりやすく、実効性のある計画の策定を支援する
- ・市民主体のまちづくり目標の設定を経験豊富なスタッフが支援する
- ・まちづくりのプロフェッショナルとなる行政職員のスキルアップを支援する
- ・基礎調査の実績を活かして各種会議へ情報提供を行い、議論をとりまとめる
- ・事務局等と弊社の円滑な連絡体制の元で計画策定を支援する

### 3. 主要提案

#### (1) 総合計画の進行管理手法の検討支援

現総合計画策定時には計画の進行管理の概念が入っておらず、行政評価は後追的に導入されたため、行政評価の主たる目的はアカウンタビリティの向上となっている。

第4次総合計画では計画策定と行政評価を同時に検討することにより、評価が可能な計画の策定とし、進行管理のみならず行政経営を支援するシステムの構築を提案する。

##### 1) 総合計画の進捗管理の基本的考え方

透明性が高く、市民合意を得やすいまちづくりを実現するために、シンプルで効率的な行政経営システムを構築する。

##### 2) 総合計画の施策単位の進行管理

総合計画の見直しに合わせ、総合計画と行政評価を一体化する。施策は分野や事業ではなく「誰が（何が）」、「どのような状態になっているか」が分かるものとし、客観指標をモニタリングすることにより総合計画の進捗状況を把握する。

指標の改善が芳しくない施策に対して、その要因を探るシステムとすることで、全事務事業の評価を回避し、少ない労力・コストで進捗管理・評価システムを実現する。

- ・SWOT分析
- ・事業仕分け
- ・政策会議（サマーレビュー）
- ・部枠予算編成方式の導入と行政評価との連動

#### (2) 市民会議の運営支援

##### 1) 市民会議の獲得目標

市民目線の生活感ある意見を集約し、提言書としてまとめ、計画に反映することをめざす。

##### 2) 市民起点の計画づくりをめざす運営方針

- ・弊社に蓄積された総合計画策定における市民会議のノウハウ、人材を活かす
- ・一連の流れにおいて計画づくりと関連付けて運営を支援する
- ・さまざまな市民の参加が予想されることから、分科会では意識のレベルを合わせた上で意見交換を行う
- ・ファシリテーションでは、協働ですることや市民がすべきことを重視し、市民目線

で生活感のある意見を集約し、的確に計画に反映できる提言書としてまとめる

### 3) 十分な議論の上で意見を集約する運営方法

#### ①分科会の構成

奈良市のまちづくり課題に対応した5つのテーマをあらかじめ設定し、希望の分科会に参加してもらうことで、委員のまちづくりへの思いの方向性を揃える。

#### ②全体会議・分科会の構成

- ・全体会は分科会間の提言の共有や相互調整、将来像のまとめを行う。
- ・分科会は弊社のファシリテーターが運営を支援し、委員のリーダー（正副部会長）と一緒に提言をまとめる。市内の大学生がアシスタントとして、分科会の運営を補助する。

#### ③運営組織

- ・行政要求に偏らず、協働・市民がすべきことを重視した市民目線の提言とするため、第1回分科会ではアドバイザーからミニ講演を受け、提言の方向性について助言を受ける。
- ・大学生にアシスタントとして参加し学んでもらうとともに、市民会議とは別枠で「大学のまちとしての市民提言」をまとめてもらう。

### 4) 運営内容と成果イメージ

全体会と分科会について、各回の運営内容と成果イメージを図で示す。

## (3) その他

### 1) インターネットを活用した調査

人口誘導戦略の基礎的なデータを得ることを目的として、市外居住者のうち住宅購入を予定している近畿圏の居住者に対して、奈良市の都市イメージや居住地としての魅力・可能性等について、インターネット調査を実施

### 2) 大学生のまちづくり提言

「大学のまち・奈良」らしく、大学生によるワークショップを別途開催し、大学生の視点で提言をまとめてもらう。

### 3) まちづくり関連団体等の意向調査

まちづくりの担い手層の多様な参加の場として、まちづくり関連団体等のニーズや、行政との協働の可能性を把握するため、団体の意向調査を行う。